

責任者	社会学研究科委員長	作成部局	社会学研究科
-----	-----------	------	--------

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】

(タイトル)

研究方法や研究対象の専門分化にもとづきながら、それらを総合的に応用し、複雑化する現代社会を分析できる人材を育成する。

(狙い内容)

社会学・社会心理学的研究は、研究方法(理論的研究、実証的研究、量的研究、質的研究など)や研究対象によって、ますます専門分化が進んでいるが、このような専門分化にもとづきながら、それらを総合的に把握することのできる力を身につけることによって、複雑化する現代社会を総合的に分析できる人材を育成する必要がある。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

研究方法(理論的研究、実証的研究、量的研究、質的研究など)や研究対象による専門分化に応じた、幅広くかつ系統的な専門的教育プログラム、およびそれらを総合的に・全体的に把握し、複雑化する現代社会を総合的に分析するための教育プログラムを整備するとともに、充実した教育環境(社会学研究科と先端社会研究所との連携事業である大学院生サポートプログラムGSSPIによる大学院生個人および相互の自主的学習・研究活動のサポート)が整備される。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	この教育目標は、研究科の教育のいわば方向性を示すものであり、その達成度を直接的かつ数量的に測定できる種類のものではない。むしろ、この教育目標を達成するための、さまざまな教育活動(下記の行動計画)の向上を示す指標によって、代替すべきものである。	評価尺度	A : B : C : D :	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)									有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績>	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標>						
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績>	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標>						

【2016年度の進捗状況について】 ←

今年度も検討したが、この教育研究目標の達成度を評価する指標は、行動計画に示す指標によって、代替すべきものであるという結論に至った。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? →	はい・いいえ
<上記で「いいえ」を選んだ場合>	
①理由:	
②今後必要な取組み:	

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

<http://kgsoc.blogspot.jp/>

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 順調に進展しています。(D)
- ・ 評価尺度の設定が望まれます。(E)
- ・ 1ページ目の「2016年度の進捗状況」欄に現状についてより詳しい説明等が追記されることが期待されます。(G)
- ・ 社会学研究科の特徴を踏まえた、適切な目標設定であると思います。(H)

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)

論文執筆や外国語によるプレゼンテーションのための教育プログラムによって、国際的に通用する研究に貢献できる人材を育成する。

(狙い内容)

論文執筆の技能を向上させるとともに、外国語によるプレゼンテーションや論文執筆を指導することによって、日本国内においてばかりでなく、国際的に活躍できる人材を育成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

論文執筆の技能を向上させるとともに、外国語によるプレゼンテーションや論文執筆を指導することによって、日本国内においてばかりでなく、国際的に活躍できる人材を育成する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	この教育目標は、その達成度を直接的かつ数量的に測定できる種類のものではない。むしろ、この教育目標を達成するための、さまざまな教育活動(下記の行動計画)の向上を示す指標によって、代替すべきものである。	評価尺度	A : B : C : D :	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)									有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績>	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標>						
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績>	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標>						

【2016年度の進捗状況について】 ←

今年度も検討したが、この教育研究目標の達成度を評価する指標は、行動計画に示す指標によって、代替すべきものであるという結論に至った。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 順調に進展しています。(A)
- ・ 順調に進展しています。(D)
- ・ 評価尺度の設定が望まれます。(E)
- ・ 国際学会での発表や外国語での論文執筆数などを指標に設定することはいかがでしょうか？(G)
- ・ 外国語によるプレゼンなど国際的に通用する人材養成を目指すなど、社会学研究科の特徴を踏まえた、適切な目標設定であると言えます。(H)

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

博士学位(課程博士)取得に至るまでの段階・プロセスをモデル化するとともに、「博士学位キャンディデート」を授与することによって、博士学位(課程博士)の取得を促進する。

(狙い内容)

学位取得の段階・プロセスをモデル化することによって、論文や学会発表を積み重ねながら、それらを学位論文の執筆へとつなげていくことが可能になる。また「博士学位キャンディデート」の授与は、一定の条件を設けることによって、学位論文執筆に先行する目標となるとともに、授与後に(学位論文提出までの)期限を設けることによって、学位論文の提出を促進しモチベーションを上げるものである。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

博士学位(課程博士)取得に至るプロセス・モデルが浸透し、これを指針に、「博士学位キャンディデート」の取得、博士学位論文の提出、博士学位(課程博士)の取得へと進むことが定着する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	「博士学位キャンディデート」および博士学位(課程博士)の取得者数	評価尺度	A:3名以上 B:2名 C:1名 D:0名	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄>	有・無

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		C (1名)	C (1名)	B (2名)	B (2名)	B (2名)	A (3名)	A (3名)	有・無
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> A	見込み <2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> A						
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 8名	見込み <2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 4名						

【2016年度の進捗状況について】 ←

2016年度末時点の見込値を記載している。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい ・ いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 順調に進展しています。(A)
- ・ 当初目標を上回る2016年度見込みであり取組みは順調のようですが、2016年度は具体的にどのような取組みが進められ、今後の課題はどのような抽出がされたのでしょうか？取組みのPDCAサイクルの状況を確認する上でも、2016年度の状況について、具体的な記述が望まれます。(C)
- ・ 改善が進んでおり、優れています。(D)
- ・ 2016年度の進捗評価の段階で「A」を達成するようですので、より高い次元を目指す新たな目標や目標値の設定が期待されます。(G)
- ・ 「博士学位キャンディデート」を授与するのはすぐれた試みであると考えます。スケジュール設定も適切です。(H)